会議録

【事業番号11 母子父子家庭支援費】

- 1 会議名 平成29年度第2回市民行政評価委員会
- 2 日 時 平成29年10月4日(水)午後3時20分~3時50分
- 3 場 所 議会第4委員会室
- 4 出席者
- (1)市民行政評価委員会委員 岡田委員長、村田委員、林委員、山崎委員、寺田委員、 大家委員、喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員
- (2) 事業担当課(福祉総務課) 多田課長、前田係長
- (3)事務局(行政経営課) 津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

5 審議内容

評価委員:派遣登録者数はニーズに対して充足しているのか。また、登録

者はどのようにして確保しているのか。(事前質問)

事業担当課 : 平成28年度の学習支援派遣登録者は、ピーク時で児童数68人、

ボランティア数は56人であり、受験が近づく年度後半のピーク時には派遣依頼件数がボランティア数を超えることがあり、ボ

ランティアが複数の世帯を掛け持ちするケースもある。

登録者は通年で募集を行っているが、毎年、年度当初に金沢大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢学院大学、金沢美術工芸大学、金沢工業大学へ出向き、学生への周知を依頼している。その他の市内の大学、専門学校等については、チラシ・ポスターを郵送し、依頼している。また、市の新聞広報、ホームページを通じて募集を行っている。

評 価 委 員 : ボランティアの負担が過剰になっていないか。(事前質問)

事業担当課 : 複数の家庭に派遣されている学生ボランティアもいるが、学校

の授業や就職活動優先で派遣先の家庭と調整をしながら実施している。また、過度の負担とならないよう、児童1人あたりの派遣回数に上限を設けている。(学習支援:月2回、ホームフレ

ンド:月5回。学生側には派遣回数上限なし)

評価委員 : 金沢市内の母子父子家庭所帯数は。(事前質問)

事業担当課 : 平成27年度国勢調査によると、単独母子家庭(母親と未婚の20

歳未満のこどものみの世帯) は 2,533 世帯、単独父子世帯は 275 世帯である (合計 2,828 世帯)。児童扶養手当認定者数をもとにした数値でみると、平成 29 年度 8 月末現在で 3,593 人、うち父子が 211 人、母子が 3,382 人である。

評価委員: 事業の情報は母子父子家庭にどのように周知しているのか。(事

前質問)

事業担当課 : 児童扶養手当の申請時や現況届の提出時に、制度の案内や募集

チラシの配布を行っている。 また本市 HP や金沢市母子寡婦福

祉連合会の HP でも案内している。

評価委員: 予算使途の内訳は。(事前質問)

事業担当課 : ボランティアの活動費や交通費、保険料、ボランティアコーデ

ィネーターに係る人件費等である。

平成28年度 6,617,387円

| 科目 | 決算額 | 摘要 | | |
|--------------|-------------|-----------------|--|--|
| 職員費 | 2, 343, 605 | コーディネーター費 | | |
| ホームフレンド | 897, 143 | 活動費 698,820 円 | | |
| 学習支援ボランティア | 2, 991, 111 | 活動費 2,645,980 円 | | |
| ひとり親家庭情報交換事業 | 95, 537 | | | |
| 生活支援講習会等事業 | 289, 991 | | | |
| 計 | 6, 617, 387 | | | |

評価委員 : 対象に別居中の家庭は含まれるか。(例:離婚に時間がかかって

いる間等)(事前質問)

事業担当課 : 基本的に国の要綱に準じて実施しており、離婚前の方は対象外

としている。ただし、レアなケースではあるが、配偶者が拘禁 中である場合や生死が明らかでない場合など対象となる場合も

ある。

評価委員 : ホームフレンドを支える体制はどうなっているか。(事前質問)

事業担当課 : 平成28年度から委託先の金沢市母子寡婦福祉連合会にボランテ

ィアコーディネーターを配置している。登録家庭とボランティ アの派遣調整を行うとともに、ボランティアの相談相手として

の役割も担っている。

評 価 委 員 : 需要と供給 (派遣要請数と派遣者数) のバランスは。(事前質問)

事業担当課 : 平成 28 年度のホームフレンドは対象家庭が 19 世帯、ボランテ

ィア数が 52 人であり、学習支援ボランティアは対象家庭が 64 世帯、ボランティアが 56 人である。ボランティアは両方登録しているよば名と、ファブ・ウェクスが労力の支援力により

ている方が多く、コーディネーターが学生の適性などを踏まえ、

どちらに派遣するかを判断している。前述のとおり、年度後半のピーク時にはボランティアが複数の世帯を掛け持ちするケースもある。

| ホームフレンド | 2児童掛け持ち | 2人 |
|-------------|---------|------|
| 学生支援ボランティア | 2児童掛け持ち | 7人 |
| | 3児童掛け持ち | 6人 |
| 両ボランティア掛け持ち | | 10 人 |

評価委員:派遣受入者やホームフレンド・ボランティアの意見等はどのよ

うに把握しているか。(事前質問)

事業担当課 : ボランティアには、毎月1回活動報告書の提出をお願いしてお

り、その際に意見や要望もあわせて記入してもらっている。派

遣受け入れ者にアンケートを行ったことはない。

なお、金沢市母子寡婦福祉連合会に配置したボランティアコー ディネーターが随時、派遣受け入れ者、ボランティア双方の意

見や要望を受け、対応を行っている。

評価委員 : ボランティアと対象児童の比率はどうなっているのか。(事前質

問)

事業担当課 : 以下のとおりである。

【学習支援ボランティア派遣実績】

| | 訪問延件数 | ボランティ | 派遣対象 | 対応比率 |
|------|-------|-------|------|------|
| | (回) | ア登録者① | 児童数② | 1/2 |
| 26年度 | 520 | 60 | 43 | 1.3 |
| 27年度 | 614 | 56 | 50 | 1. 1 |
| 28年度 | 742 | 56 | 68 | 0.8 |

【ホームフレンド派遣実績】

| | 訪問延件数 | ボランティ | 派遣対象 | 対応比率 |
|------|-------|-------|------|------|
| | (回) | ア登録者① | 児童数② | 1/2 |
| 26年度 | 130 | 53 | 9 | 5.8 |
| 27年度 | 114 | 46 | 12 | 3.8 |
| 28年度 | 194 | 52 | 20 | 2.6 |

※訪問件数は訪問児童数

評価委員:派遣回数の限度まで利用する家庭はどのくらいあるか。(事前質

問)

事業担当課 : 学習支援ボランティアは月2回を限度としており、限度回数ま

で利用する家庭が多い。ホームフレンドは月5回を限度として

いるが、限度回数まで利用する家庭は少なく、月1、2回の派遣が多い。基本的に登録は年度単位で、3月までは同じ学生を派遣する。4月以降は派遣家庭、学生ともに継続申請が必要となる。

評価委員: ボランティアへの報酬が事業費を圧迫しているということはないか。また、家庭への派遣ではなく、地域の施設での集団支援や、地域のグ学習サポート活動を情報提供することは可能か。

事業担当課 : ボランティアの大学生をひとり親家庭の自宅へ派遣する形の学習支援は全国的にも珍しく、大学などの高等教育機関が多く立地し、学生が多い金沢の特性を活かした取り組みである。市としても必要性を認識しており、ボランティアへの報酬を含む事業費の都合で派遣を制限しているものではない。

地域の施設に通っていただく形での学習支援については、今年 度、モデル事業として実施を予定しており、今後その効果や課 題も検証していく予定である。

情報提供については、現在のところ、地域やNPO等が実施している学習支援についての情報を把握できていないのが現状であり、今後、情報の収集に努めていきたい。

評価委員 : ボランティア等の派遣申し込みには100%対応できているか。

事業担当課: 100%対応できているが、家庭に親がいる時間でないと訪問できないことや、家庭によっては派遣を受け入れにくい家があり、

制限される部分はある。

評価委員: 時間があわない等で派遣制度を利用できない数が知りたい。

事業担当課 : 調査はしていない。しかし、今年度、地域の固定施設に通って もらう学習支援をモデル事業として実施するが、事業として通 常化できれば、利用しやすくなるとは思う。

評価委員: 二次評価に「利用者が増加傾向にある」とあるが、いまのところ、バランスはとれているのか。

事業担当課 : 今のところバランスはとれているが、需要が増えている中、将来、利用者とボランティアのマッチングが難しくなると思われる。そのため、早い段階でボランティアの確保策を検討する必要があるという評価をした。